

# 島根県ソフトボール協会

## これまでのあゆみ

昭和24年、軟式野球連盟から独立して島根県ソフトボール協会が創設され76年の時代を刻んだ。当初は一般女子1チーム、高校女子6チーム、中学校のクラブ活動の女性だけのチームだった。昭和38年に一般男子5チーム、教員3チームなど男性チームも加わってきた。

昭和57年には第37回国体（くにびき国体）においてソフトボールが木次町と三刀屋町で開催され、成年女子・少年男子が準優勝という快挙を成し遂げ、地元は歓喜に包まれ天皇杯受賞に大いに貢献した。

くにびき国体の成年女子は、地元のレディースチームに3人の選手を補強して参加。国体後、島根三洋電機ソフトボール部が創部される。また、成年男子は行政の働き掛けで地元木次町のホシザキ電機(株)の軟式野球チームをソフトボールチームに転向して出場した。ともに国体後は女子リーグ・男子リーグに加盟し、木次町を中心にリーグを招致し、県下の競技力、技術力の向上、指導者、そして審判員の育成強化に結びついていった。

島根三洋は日本女子リーグ2部に所属し、平成10年から13年まで全日本実業団女子選手権大会で3連覇。そして平成20年大分国体では初優勝。平成21年新潟国体は第3位と大活躍を成し遂げた。また、ホシザキ電機ソフトボール部も平成15年に全日本実業団男子選手権大会で優勝し、共に島根県ソフトボール協会の黄金時代を築いた。

しかし、社会情勢が変化していく中で平成24年にホシザキ電機が廃部、25年には島根三洋電機が休部で事実上の廃部に追い込まれ、その後、島根県ソフトボール界の低迷を招くこととなった。その中でも、島根三洋を引き継いだクラブチーム「DAN-DAN」や全日本壮年大会で優勝を飾った「木次ミステリーズ」の健闘が光った。

一方、出雲市が平成4年に出雲ドームの完成を祝って日・中・米のソフトボール選手権大会を開催し、令和元年には東京オリンピックの開催を控え、出雲ドームで日本代表選手25人の強化合宿を誘致された。その折、メキシコチームと練習試合が実現し、普段、目にすることがないトップクラスのプレーを地元の7000人の皆さんに観戦していただき、ソフトボールの魅力を伝えた。また、その余波で令和3年に日本女子リーグ1部を招致し、3日間4チームによる5試合を行った。トップチームの迫力あるプレーは観客も大満足し、競技の普及に貢献した。

## 現在の状況

当協会は現在関係者1000人で組織しているが、登録チームは90チームをピークに現在50チームに減少、審判員は500人をピークに現在170人と平成15年頃より減少の兆候が表れてきた。特に、大きな問題は小中高のジュニア層の減少である。

2030年島根かみあり国スポに向けて、競技力向上と大会運営役員等の養成という2つの取り組みを進めているが、人口減少でチームが減少していく中、この課題を解決する糸口はなかなか見つけ出せないのが現状である。しかし、厳しい状況の中で中学校男子の部活動がなかった当県に、このほど、総合型地域スポーツクラブがその受け皿となって中学生の男子チームが結成された。今後の活動に期待をしたい。

## これから

2030年島根かみあり国スポを絶好の機会と捉え、大会に向けての選手強化、役員の要請などの取り組みを進めていく。

ソフトボール競技もパリ五輪では再び除外となったが、4年後のロス五輪で復活が決まり、否応なしにソフトボールが注目される中、ロス五輪の2年後に島根かみあり国スポが開催され、盛り上がり期待される。我々も、島根かみあり国スポに向けて協会一丸となって取り組みつつ、その後も持続していける基盤をこの機会に作ってきたい。



東京オリンピック日本代表選手の強化合宿ではメキシコチームとの練習試合が行われ、地元ジュニアらとともに記念撮影（出雲ドーム）